

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

インサイダー

2001 (平成12) 年4月27日鑑賞

Data

監督：マイケル・マン

出演：アル・パチーノ/ラッセル・クロウ

👁️👁️ みどころ

アメリカでは、近時、たばこ訴訟が多発し巨額の賠償金を命ずる評決もある。インサイダー（内部告発者）となって、たばこの有害性を社会に訴えるための2人の男の戦いとは……。ラッセル・クロウとアル・パチーノという、2大俳優による社会派ドラマの迫力を満喫できる作品。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<集団タバコ訴訟における前代未聞の賠償金>

アメリカでは、1996年から1998年にかけて、喫煙により健康被害を受けたとして、タバコ・メーカーに損害賠償を求める訴訟が多発した。その流れを受けて、2000年7月14日、アメリカ・フロリダ州の集団タバコ訴訟で、フィリップモリス社ら5社のタバコ・メーカーに対して、1448億ドル（約15兆6千億円）という天文学的な額の懲罰的賠償金の支払いを命ずる評決が下された。

たばこの健康被害に対して、タバコ・メーカーの責任を問う訴訟は、1950年代からあったものの、ほとんどメーカー側が勝訴していた。しかし、健康志向の高まりと、製造物責任法（PL法）の考え方の浸透の中、1990年代に入ってから、この流れは大きく変わり、タバコ・メーカーの責任を認める評決がいくつもあらわれた。しかし、この15兆円という巨額の賠償金は前代未聞で、世界的に注目された。

<タバコ産業のインサイダー>

「インサイダー」とは、内部告発者のこと。上記のような、アメリカでのたばこ訴訟の実態を背景として、たばこの有害性を、タバコ・メーカーの内部から告発しようとする技術者と、これを応援するテレビ番組のプロデューサー、この2人が巨大な組織と戦う姿を

描いたのが、この作品だ。

1人は、タバコ・メーカーA社で、研究開発部門の副社長まで務めたワイガンド（ラッセル・クロウ）。そしてもう1人は、アメリカの三大ネットワークの1つCBSの人気番組「60ミニッツ」のプロデューサーであるバーグマン（アル・パチーノ）。この2人が、タバコ・メーカーによる執拗な妨害や、更には、あろうことか、タバコ・メーカーからの損害賠償請求訴訟を恐れたCBS上層部による番組中止の決定に対し、自らの生活や家族の生活までも賭けて、戦っていく姿を描く社会派作品だ。

きれいな女優さんは誰も出てこない。また、2時間38分という、結構長時間の作品だが、それなりの社会的地位にあり、己の仕事に誇りをもつ男の「意地」が、ドラマティックに描かれており、決して飽きさせることはない。

＜2人のインサイダー＞

上層部と対立して退職したA社の研究開発部門の副社長であったワイガンドは、タバコの有害性を証明できる人物だが、会社との間で終身守秘義務を契約していた。しかし、バーグマンは自らの番組「60ミニッツ」で、タバコの有害性について、ワイガンドにインタビューすることを狙う。そして遂に、ワイガンドはインサイダー（内部告発者）となることを決意した。

その動きを知ったタバコ・メーカーは、あらゆる手段を使って妨害工作を展開。ワイガンドの周辺にはあらゆる危険が……。更に、苦労を重ねてワイガンドの供述書をとったバーグマンに対して、CBSの上層部は番組の放映中止を決定する。

命を賭けた番組を放映するためにはどうすべきか……。それは、バーグマン自身もインサイダーとなって、CBSを告発することだった。

＜社会派ドラマの最高峰＞

アクションもないし、きれいな女優さんも出てこないけれども、何とも迫力のあるすごい映画だ。たばこの有害性とその告発という社会的テーマだけで、観客を惹きつけるのは、やはりラッセル・クロウとアル・パチーノという、2大俳優の、「男の魅力」によるところが大きい。

アメリカでの上記の訴訟や、日本でも提起されている嫌煙権訴訟と対比しながら、この作品を観れば、いかに社会的な大テーマを描いた作品かが、よくわかる。

若い人たちは、観ていてちょっとしんどいだろうが、是非、観て、考えてもらいたい作品だ。

2001（平成13）年10月記